

遺族の友



発行所 一般財団法人滋賀県遺族会 滋賀県大津市におの浜4丁目2-34 電話 (077)522-7227 FAX (077)522-7233 発行責任者 滋賀県遺族会会長 大長 弥宗治

持続可能な遺族会活動を

滋賀県遺族会会長 大長 弥宗治



昨年6月に会長職をお受けして、丁度一年となります。この間理事、評議員各位および会員の皆様... 終戦から74年の歳月が流れました。時代は大きく変わり、昭和は戦争と平和、平成は一度も争いがない平和な時代。しかし、一方では自然災害の大変多い時代でもありました。

しかし、新しい令和の時代と成り、国の家族の安泰と、国の平安を願う散華された御霊の願いは、二度と再びあの忌まわしい戦争の惨禍を繰り返してはならないと「平和」という二文字を、私たちに残していただきまし... 3737千円を計上し、去る3月の理事会で承認をいただきました。また、5月28日開催の第49回定時評議員会でもご報告させていただきます。

また、次世代活動に対する財政基盤の確立のため、財政基金積立規程に基づき、一口5000円で3カ年間実施する賛助金を先の財政事業改革に基づき予算計上させていただきました。これを財源に、財政基金積立金(次世代活動資金)として、本年度3737千円を計上し、去る3月の理事会で承認をいただきました。また、5月28日開催の第49回定時評議員会でもご報告させていただきます。

遺族会員の皆様にも重なお願ひします。遺族会員の高齢化が進み遺族会活動が大変困難な時期ではありますが、英霊顕彰事業を次の世代に繋げるために、是非ご協力賜りますようお願いいたします。私たちが戦没者遺児が今なすべきことは、新しく令和の時代と成り、英霊顕彰と平和の尊さをしっかりと次の世代に繋げていくこととあります。私の任期もあと一年あります。ご遺族をはじめ関係者のご支援とご協力を心からお願ひ申し上げます。

第45回記念 靖国神社昇殿参拝旅行

祭祀委員会(靖国)委員長 永田 征二

昭和50年2月、「母の像奉納式典参加」として50人の諸先輩方が参拝されてから始まった「靖国神社昇殿参拝旅行」も今回で45回を迎え、3月17日から18日にかけて実施しました。数年前から全県を二班構成で実施してまいりましたが、今回は会員相互の親睦を重視し一班構成で実施しました。

令和元年度滋賀県遺族会の主要事業計画

Table with 3 columns: 時期 (Date), 事業名 (Activity Name), 備考 (Remarks). Lists various events from April to March, including memorial services, meetings, and field trips.

今年はずの外寒さが長引き、早朝の米原駅ホームは寒く、吐く息が白くなっていました。品川から靖国に向かう近江バスの車窓からは、来客迎えるオリオンピクニックの工事があり、こちらで見受けられ、躍動する首都に頼もしさを感じました。予定期靖国神社に到着後、参集所に総勢392人が参集。山川芳志郎副会長の司会により大長弥宗治会長の挨拶、来賓の水落敏栄参議院議員(日本遺族会会長)、滋賀県選出国会議員各秘書の挨拶等の後、いよいよ昇殿参拝。これ以降

は神官により進行。拝殿では大長会長による祭文奏上。その後数十名毎に昇殿参拝。それぞれ父や伯(叔)父や兄弟など英霊に家族や自分自身の今を語り、安らかなれと祈念のひと時を過ごすことができました。日曜日とあつた予定通り参拝の方で境内にはぎやかな様子を呈して、相を呈して、残念ながら東京もやはり寒く、境内の桜の標本木はまだつぼみ固しと見受けられました。なごりを惜しみながら靖国を後にして関越道、上信越自動車道經由「こんにやくパー

ク(群馬県)を見学。たかが「こんにやく」と言うなかに、なかなか面白い施設で、時間があれば製造工程の見学も必見と思えました。何といつても「こんにやくバイキング」がお楽しみでした。午後5時ごろ磯部温泉「磯部ガーデン」に到着。お楽しみ懇親会は約500人収容の全席椅子の宴会場で桜色の浴衣姿が一層華やかで壮観でした。民謡ショーやバス号車別のカラオケ、江州音頭などで賑やかなひと時となりました。ただ、席間隔が狭く、市町間会員の親睦が活発で密になったか若干の不安は残りましたが... 翌日は今回の目玉「世界遺産 富岡製糸場」の見学です。明治3年、明治政府は近代国家設立のため殖産興業政策に基づき、西欧の先進技術を導入して製糸工場を設立しました。広い敷地に木骨煉瓦造りの建物が何棟もあり、国宝の緑糸機が約140機の線系所に据え付けられており、その壮大さに圧倒されました。明治の人は偉かったと言いは片づけられない遺産です。案内人の軽妙洒脱かつ的確な説明でみんな納得の見学でした。昼食会場の白樺湖畔の平ホテルに向かうバスは、八ヶ岳中信高原国定公園を通り抜け、車窓に見える残雪と白樺林が織りなす高原風景に皆さん堪能した模様です。食後は一路中央自動車道から名神養老SAを目指し帰路につきましました。無事参拝旅行ができました。



靖国神社の参集所に集まった参加者

# 次世代戦跡訪問研修

## 次世代戦跡訪問研修を終えて

副団長 川井 欣司

第18回次世代戦跡訪問研修鹿兒島方面に参加のための説明会を本年初めて東近江市の滋賀県平和祈念館で実施。男子26人、女子14人の事業参加者、親御さん、また遺族会からは引率者や滋賀県遺族会長等計100人近い人に出席していただき、研修会の趣旨、行程の説明等を実施。平和祈念館の内部も見学していただきました。遺族会関係者以外は大半が初来館で、熱心に聞いていただき、大変良かったと思います。この研修事業に今まで参加してくれた次世代を担っていた子どもさんが今回を含め700人を超え、関係者として大変うれしく思います。

次世代に、私たちが実感している戦争の悲惨さと平和の大切さをいかに繋いでいくか、その重要性をひしひしと感じます。特に戦争体験者が高齢で、年々減少していく中、私たちがいかに次世代に継承していくか、責任を感じる次第です。

今回の研修で、串良掩体壕や地下壕電信司令室、昔のままの遺跡を見たことによる経験は、子どもさんたちに大変印象に残ったことと思います。また、知覧特攻平和会館や富屋食堂では、実際の報道とは違い、大半の特攻隊員が両親や兄弟の幸せを願い飛び立ったと聞きました。きつと子どもさんたちには心奥深く残ったことと思います。

真実は何か、現在においても大変難しいことです。将来疑問を感じたときは今回の研修を思い出し、何が真実か、十分考えてください。

最後に、今回参加の子どもさんたちは、大変熱心に話を聞き、メモを取り、これといったトラブルもなく無事研修を終えることができ、ありがとうございました。新しくできたお友だちと平和・戦争について意見を交換していただければうれしく思います。

## 戦争が生み出したのはぎせい者だけだ

彦根市立西中学校1年 高橋 温生

僕は次世代戦跡訪問研修に参加して、昔戦争で行われていた特攻を中心に見てきました。遺影に映る写真は、どれも笑顔のものばかりでしたが、本当は誰も笑う人はいなかったらしいです。

国にある物資が少なくなったために始まった日本の戦争。勝つことが難しかったため行われた特別攻撃隊による特攻は、人間ごと相手の空母に突撃して火災などの被害を受けさせることですが、その特攻の最後の通信をしていた場所で、モールス信号を聞き、中でも一番多いのは「お母さん」と発信していたそうです。かなり悲惨だったと思います。

また、飛行機他に魚雷や機雷などがあり、訓練はとも過激で厳しいもので、操作ミスによって死んだり、疲れきって死ぬこともあったそうです。そのひどさは、今ではとても理解することができないものだったと思います。また、仮にうまくいっても空母などに突撃をしなければならず、若い人の命はすぐに散り散りになっていくのに、国のために命を落とすのが当たり前で考えたことは言っても、短い人生をどう感じて受け止めていたのか、どんな気持ちで突撃していたのかは計り知れないものがあったのではないかと痛感し、そうなることを望んでいないのに向かう勇気を感じました。

また、当時隊員が利用していた食堂の鳥浜トメさんのお孫さんからのお話を聞いていても、どんな人も笑顔で特攻に行くことはなく、ポケットには家族の写真を入れている人がとても多かったそうです。

やがて日本が負けて、平和になった日本は、こうして数え切れないくらい若い人から命をうばった戦争、生み出しているのはぎせい者だけだと思いました。こんなことが二度と起きないように、しっかり伝えていきたいです。

## 戦争の恐ろしさを伝えていきたい

野州市立三上小学校6年 奥野 大地

戦争について学校でたくさん学んだことを学びました。その中で一番悲惨だったのは、「第二次世界大戦」またの名を「十五年戦争」です。日本は資源不足を理由にアメリカの真珠湾を攻撃しました。それがきっかけで、太平洋戦争から第二次世界大戦に発展し、世界中の人がたくさん亡くなりました。日本の人々もたくさん亡くなりました。その多くは、国の軍事行動の最先端にたつた人々でした。

しかし、この程度の知識では第二次世界大戦の本当の恐ろしさは分かりません。なので、鹿兒島の戦跡訪問研修に参加しました。そこで戦争の恐ろしさに

ついてたくさん学んだことを学びました。その中で特に心に残ったことは、「特別攻撃隊」です。どんな隊かと言うと、隊員が戦闘機に乗り、敵艦に体当たりするという残酷かつ無謀な組織でした。「お国のため」なんて、こんな悲惨な言葉があるでしょう。隊の中には、まだ17歳の若者や、妻子を持つ人もいたそうです。そんな人々がお国のためと言って自ら命を絶っていました。

新聞には、笑って行ったと書かれ、笑顔の写真を載せられました。ですが、本当に笑って行った人なんて一人もいませんでした。皆、布団にうずくまり、

泣き叫んでいました。なので、枕が涙でびしょ濡れになっていることが多々あったそうです。

これらのことは、終戦から74年経った今では戦争があったことは知っていても、戦争の本当の恐ろしさを知っている若者は、ごく少ないと思います。僕も、まだまだ戦争について分からないことがたくさんあります。ですが、これからは貴重な体験をもとにたくさんの方の学び、たくさんの方に戦争の怖さや恐ろしさを知ってもらえるようにしたいです。そして、いざい争いのない世の中にしていきたいです。



万世特攻平和祈念館を見学する研修に参加の皆さん



特攻平和観音堂での慰霊祭で参加者一同「ふるさと」を献歌



平成31年3月23日～25日

# 死ぬことが前提の作戦なんて

草津市立山田小学校6年 横江 颯葵



現存する富屋食堂の建物。鳥浜トメさんは特攻隊員から「おかあさん」と慕われた

ぼくは、平和学習で学んだことが二つあります。一つ目が戦争の悲惨さです。戦争では、日本の人だけではなく、多くの方々が亡くなりました。亡くなられた方の中には、ぼくたちと年齢が近い方もいることを知りました。中でも最もつらく悲惨だと思ったのは、特別攻撃隊（特攻隊）といわれるものです。特攻隊とは、アメリカ軍に追い詰められた日本が最終手段として採用した作戦です。この作戦は、爆弾や魚雷もろとも敵の軍艦に体当たりする攻撃です。

この攻撃について僕は、人が死ぬことを前提とした作戦なんてとてもひどいと思いました。知覧の特攻平和会館で、実際に特攻隊で使われていた回天や桜花という特攻専用兵器やゼロ戦の資料を見たりお話を聞いたりする中で、僕の中で戦争のおそろしさが大きくなってきました。戦争はとても悲しく悲惨なものだとあらためて感じました。また、戦争や特攻隊に行った方々の気持ちについて学ぶことができませんでした。ホテル富屋食堂といわれる施設で、食堂の経営者であった鳥浜トメさんのお子さんの石井ひろしさんにたくさんのお話を聞かせていただきました。そこでトメさんはこうおっしゃったと話されました。「ラジオや新聞ではみんな笑って飛び立ったというが、これから死ぬという人々が笑っていくわけがない。トメがあずかったお母さんへの手紙には、お国のためになど書いてはいなかった」と語りついでこれらを読んだら、僕がもし特攻隊としての命令をうけたら、もつとやりたいこともあるのに死ぬなんていやだ。家族や友だちと平和に暮らしたいと、命令を受け入れたくないです。特攻隊に行かれた方々はきつと心の奥底には僕と同じような気持ちをかかえておられたんだろうと思いました。

そして二つ目に学んだことは、この悲惨で残った戦争体験を次の世代に語り続けていくことの大切さです。この平和学習に参加させていただき、戦争がもたらしたきょう怖、悲しみの数々を目で見て、話を聞いてやっとなんてわかっていけることができませんでした。これから先は戦争を体験された方の生の声を聞ける機会も減ります。この貴重な体験を僕も誰かに語り継いでいくことで、戦争の悲惨さを世界中に広めていきたいと思えます。一人ひとりが平和への意識を高め、今もなお起こっている内戦や紛争もなく、世界中が平和になるように願います。少しでも伝えていこうと思えました。そして二度とあの戦争をくり返さない世界にしていきたいです。

# 戦争を二度とおこさないために

甲賀市立大原小学校6年 大原 拓



特攻平和観音堂前で、研修に参加した皆さん

ぼくはこの平和学習をおえて戦争を二度とおこしてはならないと思えました。戦争はいろいろなものをうばうともおそろしいことです。命、友だち、家族までもうばってしまいます。もしもおこってしまったら、特攻やそれ以上悲惨なことがおこるかもしれません。ではどうしたらよいのでしょうか。実はこんな詩があります。「戦争の記おくが遠ざかるとき、戦争がまた私たちに近づく」これから分かることは、私たちが戦争の記おくを子孫につたえていけば、戦争は遠ざかるということだと思います。ぼくたちは子孫に戦争の記おくをつたえることが使命なのです。特攻とは省略名で、本当の名

前は特別攻撃隊といえます。お国のために自分の命を捨ててアメリカの空母や軍かん、戦車に体当たりするものです。特攻と言えば飛行機での攻撃を思い浮かべますが、体に大量の爆弾をまいて戦車に体当たりするものや、回天という魚雷型の特攻兵器は、これは中に入ったら二度と出られないのです。また、潜水服を着てアメリカの船の下に行つて、船底をやりのようなもので突き刺して船をしずめるものもありました。特攻に行つた人たちは1036人もいて、その多くは16歳から20歳の方がほとんどだったそうです。その人たちは親に手紙を書いたそうです。それは「いまからいつまでか」や「お国のために戦つてきます」などでしたが、それは書かされたものでした。本当は「とても悲しい」「君と住みたい」などでした。しかしそれはけんえつに通りませんでした。その人たちは富屋食堂の鳥浜トメさんをおして親に手紙を届けてもらったそうです。ぼくはこの手紙を読んで胸が苦しくなりました。

## ◆滋賀県護国神社 英霊顕彰館だより◆

昭和48年3月、ここ護国神社で結婚式を挙げました。今日は妻と一緒に来ました。  
(彦根市Sさん夫妻)

夫の父は、30歳で1歳7カ月の我が子（私の夫）を残して戦死。父の気持ちはいかばかりだったことか。写真を見つめながら涙が止まらず、手を合わせ「ご苦労さまでした」としか言えませんでした。残された子も喜寿を元気で迎えることができました。  
(東近江市女性)

オーストラリアで、昔で言えば敵国であった英国人と平和に暮らすことができましたのは、英霊の皆様や先人の方の耐えがたいご苦労の賜物と、心より深く感謝申し上げます。  
(在豪女性)

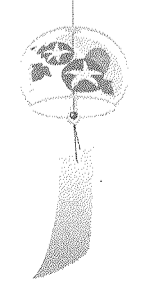
「入館者ノートより抜粋（原文のまま）」

【来館者数】

12月	17人
1月	38人
2月	1人
3月	16人
4月	20人
5月	16人

(※10日まで)

年号が令和に変わりましたが、引き続き本欄を連載していこうと思えます。皆様のご意見・ご要望をお寄せください。  
(彦根市遺族会 原 幸男)



# 原点の靖國神社国家護持を

東近江市遺族会 福島 睦一

私は、遺族会青年部の新体制発足当時に入会して、自分なりに頑張ってきたと思っております。今願いますと、当時は遺族会の第一の運動目標は、扶助料等の国家補償の件もありましたが、なんと今も靖國神社の国家護持が第一目標であつたと認識しています。私は参加できませんでしたが、当時の國松善次全国遺族会青年部長を先頭に、県内からも松井尚之

元滋賀県遺族会長、岸田孝一前会長が全国の同志とともに3日間の断食祈願に参加してくれました。その時、藤波孝生内閣官房長官が皆さんの気持ちは十分分かったと話された聞いています。また、国会陳情では、次の選挙で自民党が280人以上になれば法案は絶対通すから、選挙で応援するように彼の「浜コー」さんからハッパをかけた後、靖國法案は継続審議の後廃案となり、以後表に出ることはありません。

私は、言いたい。国はこれで良いのか。父たちは「死んだら靖國で会おう」の合い言葉で戦場に赴き、国家のために見事若い一命を捧げたのです。このことを一生忘れることはありませぬ。今、遺族会は新しい時代に入ろうとしています。原点に返って、この靖國神社が国家護持されなければ親不孝で終わってしまうのではないかと不安でなりません。

も、遺骨が帰ってきた時も祖母から「薄情な女」と言われながらも、ただ黙々と耐え抜いてきた。昭和23年、戦争の痛みも少しづつ癒えはじめた頃、3年生になった夏の縁日で真っ白なやわらかいゴム鞆を買っても買った。その頃はまだ、綿に布切れを巻き付けたボールと手製のバットで遊んでいた。学校からの帰り道、大切にしていたゴム鞆を手から滑らせ、川に落ちてしまった。田には一番水の必要なとき、子どもの腰以上の水

で、流れも速かった。私は土手に鞆を放り出すと川下へ思い切り走った。何度か何度も転びそうになりながら、川へ入って肩まで水につき、流れながらボールの流れてくるのを待った。身体に当たった水が波を作り、手の届かぬ彼方へボールを押し流してしまふ。また川下へ走って、3回目試みたのだがとうとう見失ってしまった。泣きながら鞆のところに戻ったとき、友だちの知らせで駆けつけた母が、ずぶ濡れの私をしっかりと抱きしめて一緒に泣いて泣いてくれた。「流されたら死んでしまふのに」と。このとき、母の涙を初めて見た。戦争で夫を失い、末の弟は栄養失調で死なせ、追っかけて祖父が他界した。私の無事な姿を見たとき、母は声を上げて泣いた。やっと泣くことのできる平和が来たのだ。母は父の五十回忌が済むと静かに逝った。近頃また憲法改正が取り沙汰されるようになった。敗戦国が唯一得たものが、戦争のない平和憲法だったはずなのに。

# パラオ・ペリリュー島船上に思う

高島市遺族会 角野 彰夫

コロル島からペリリュー島へ向かう船上は、それまで賑やかに声が聞こえていました。船のエンジン音と風音、そして波しぶき等によって人々の声はかき消され、皆無言となりました。そこで皆さんは何をお考えになったのでしょうか。この暑いパラオのジャングルで、また船上で多くの方々が戦死されたこと、苦しかっただろうな、遠く日本にいる家族への思い、無事日本へ帰れる明日のない戦い、いろんな思いで戦没者に語りかけておられるんだろうなと感じています。そして私はその洋上で呼びかけの機会を与えていただきました。

人間がこの世に生まれた以上は誰しも家族があり、その家族という集団の中で日々平穏な幸せを求め、暮らしていく願いを抱いています。それが突然社会の激変を理由に呼び出され、戦地に赴く。これは一体何なのだろうか？日本という大きな集団の利益や

人々の幸せを願うために戦地に行くことが、結局はその人々や家族の不幸を招いている、大きな矛盾を感じます。でも戦跡慰霊巡拝は戦没者が73年経った今でもお帰りにならない、だからせめて遺族が戦地に赴いて哀悼の誠を捧げ、心から慰霊する。そして英霊の皆さんのおかげで現在の日本の平和があることを思い、我々遺族が広く皆に顕彰していることを報告するために行われるのだという言葉を改めて考えて直す旅でした。ご来賓は「この英霊顕彰事業は本当に大切な事業だ」とおっしゃいました。ありがたいことです。

私の村の神社には、過去の戦利品と言われる額が掲げてあった。今では、その本体の大半は太平洋戦争に駆り出され、針金だけが残っている。父は昭和20年に南

の島で戦死。母は父の出征後、老いた祖母や私たち3人の子供と家長のいな田畑、家屋敷の守りに必死に喘いでいた。そんな中でも涙ひとつ見せなかつた。父の出征の時

私、初めての呼びかけの中で一体何を語れば良いのか、しばらく考えました。父親も戦争に行つたこと、私を話した。本当に伯父さん(享年24歳)に話したいことが山ほどある。それは伯父さんへの家族愛というよりも、伯父さんがなぜ戦地に行かなければならなかつたのか、伯父さんは戦争に行くとき、い

ろんなことをお考えになったんだろうと思えます。その時思われた本当の気持ちをお聞きたいのです。この戦跡慰霊巡拝には多くの遺族の方々と一緒です。そのほとんどは伯父さんを亡くされています。お父さんを戦争で亡くすのでは、やはり家族愛の程度が違うのでしょうか！いろいろな複雑な気持ちになってきます。

うらかな春日よりの4月5日、滋賀県護國神社の春季例大祭が斎行され、本県選出の国会議員をはじめ、多くの来賓と県内各地から多数の遺族会員や関係者が早朝より参列して厳粛に執り行われた。山本賢司宮司の御霊をお慰めする

祝詞の奏上には始まり、神社本庁からの献幣使が祝詞を述べられた。次に、大長弥宗治滋賀県遺族会会長が「時代が平成から令和に変わって、世界の恒久平和の実現を求める私たちの願いは変わらない。滋賀県遺族会では青年部の育成、そして次世代の平和学習を重点事業と位置づけ、世界の恒久平和の実現を次の世代に繋いでいくため努力を重ねていくことを固くお誓いする」と祭文を奏上。続いて多賀大社の巫女による「浦安の舞」が奉奏され、参列者一同ひとときの神事を堪能した。引き続き玉串奉奠へ移り、山本宮司をはじめ来賓の皆さんと参列者一同が英霊に哀悼の誠を捧げた。

最後に山本宮司が「5月1日以降は令和が新元号となる。万葉集から引用された令和というの、良い。そして『令』という字は神様の鈴にも通じるすがすがしい、清らかなという意味もあると思う。『和』は聖徳太子の『和を以て貴しとなす』の



戦没者への思いを胸に海上に献花する参加者

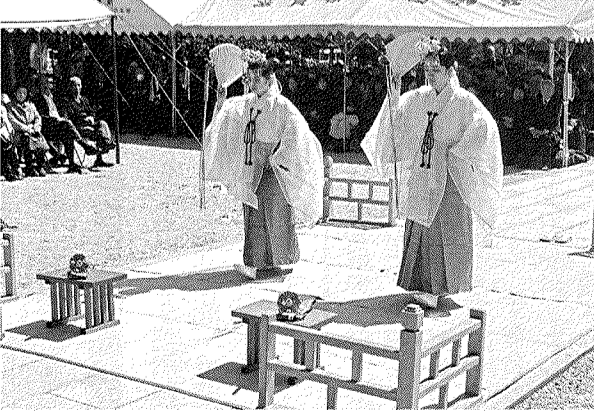
## 滋賀県護國神社春季例大祭

# 恒久平和実現の願いを次世代へ



春季例大祭で祭文を奏上する大長会長

「和」であるから、すがすがしい穏やかで平和な良き時代が長く続きますようにという願いが込められている。皆様方もご努力をいただいて、穏やかな平和な世の中にしていただきたい」と述べられ、参列者一同大きな拍手のうちに春季例大祭は終了した。(広報 川合 良雄)



多賀大社の巫女による「浦安の舞」





ペリリュー島で挙行された合同慰霊祭

### パラオ共和国戦跡慰霊巡拝を終えて

英霊顕彰委員会委員長 土田 幸夫

平成27年、天皇陛下が戦没者慰霊に旅された「パラオ共和国」。

この度、多くの方々のお陰をいただき、巡拝が実現しました。三日月大造滋賀県知事代理の西嶋栄治副知事、川島隆二滋賀県議会議長、県議会議員各位、正木県健康福祉政策課長と職員の方々の来賓の皆様が、遺族会員らと一緒にしました。

幸い事故なく、雨天なし。皆様元気の4泊5日、正に英霊のご加護の賜物と頭を下げずにいられます。巡拝初日、コロロ島の戦車前で朽ち果てたキャタピラに慰霊の祈りをしました。

西太平洋戦没者の碑前では合同慰霊祭が挙行され、駐パラオ山田日本国大使の出席をいただきました。その帰途、オレソンジビーチで青い静かな海に、全員黙禱を捧げました。

ペリリュー島での

### パラオ戦跡巡拝 不戦の誓い新たに

米原市遺族会 吉田 佐代子

野山が錦に輝く秋日和の好季節、パラオ共和国戦跡慰霊巡拝に参加させていだきました。

訪問地のパラオ共和国は、見渡す限りの澄み切った青空。折々に様々に彩りを交える碧い海。透明で今にも手の届きそうな海底。隆起珊瑚の島々の景勝は、ここで73年前悲惨な戦争があったとはとても想像がつかない美しい国でした。

熱帯の紫外線が強く肌をさす暑さの中、終日好天に恵まれ各地を慰霊巡拝できたことは、御霊のご加護と感謝申し上げます。

訪れる先々には、今も戦争当時の水陸両用戦車や戦いの残骸が残されており、多くの犠牲を払った当時の惨状に想いを馳せるとともに、今も島民の方達の手で温かく御霊が守られている様子を垣間見ることができました。

私は、慰霊最終日のパベルダオ島での慰霊祭で「呼びかけ」の機会をいただきました。父の戦死したボルネオ島は遠い水線の遙か彼方で、方向もおぼつかなくなっていたのですが、日頃は父に想いを馳せながらもなかなか口に出すことは

できない中、澄み渡った大空に向かって呼びかけ、万感胸がいっぱいになりました。こうした機会を与えていただき、誠にありがとうございました。

私たちは、おかげさまで平和な暮らしを享受させていたにいます。この幸せをかみしめ、国内外ともどうか二度と戦争の惨禍が起らないよう、戦争が与える不幸と苦しさを体験した者として、また今回慰霊巡拝に参加した者の務めとして、機会あるごとに語り継いでいかねばと誓いを新たにしました。



西太平洋戦没者の碑の前で行われた式典

戦闘死傷者日本軍1万2000人、米軍8500人以上。各所に残る戦跡は戦争の悲惨さを寡黙に示している。平和で安寧の海辺は、どうして

資料より）  
ついでこの間のことながら、また繰り返しすかもしれない、水線以上の狂気にも似た激戦。平和で安寧の海辺は、どうして

も永劫守り続けたいとの強い思いのみが先走ります。  
パラオ共和国戦跡慰霊巡拝を終えて、御礼のことばといたします。

### ファイリピン方面戦跡慰霊巡拝を終えて

慰霊巡拝団団長 山川 芳志郎

平成31年2月8日から14日までの7日間、「平成30年度滋賀県遺族会ファイリピン方面戦跡慰霊巡拝」が滋賀県遺族会主催で行われました。

来賓として、野田長が英霊に「一緒に帰ろう」と呼びかけてくださいました。帰路は、英霊も一緒にだと想うと、心賑やかな旅となりました。

あり、言葉はうわずり、私たち遺族の歩んできた道は厳しく苦しい日々であったことを物語っておりました。この呼びかけはきつと英霊に届いたものと思っております。

訪問先は次の2つの小学校でした。お土産として渡すことができました。A班：ファイロメヤ・パラシ・カッテイ

宗治戦跡慰霊巡拝団長が英霊に「一緒に帰ろう」と呼びかけてくださいました。帰路は、英霊も一緒にだと想うと、心賑やかな旅となりました。

さて、毎回行っております現地の小学校表敬訪問について報告とお礼を申し上げます。前回までは各自がお土産として文房具を中心にお土産をしておりました。ところが、今回は現地の校長先生から「厚かましいお願いですが、もしお許しただけなら、ご家庭に残っている不用品な楽器をお土産にいただけたら嬉しいですよ」との要望連絡がありました。

早速、各支部に呼びかけていただいたところ、別表のように多くの楽器を寄せていただきました。想定外の集まりでした。中には、遺族会員でない方も自

宅に届けてくださいました。関心の深さ、皆様の優しい心に感激しました。ありがとうございました。現地の子どもたちや先生が本当に喜んでくださり、私も感動しました。言葉は通じませんが、子どもたちの目の輝き、喜びの心は十分に伝わってきました。『ありがとうございます』

A班はルソン島北部戦跡、B班はレイテ島、サマル島戦跡に分かれ、それぞれA班は7カ所、B班は8カ所所慰霊を行い、2月13日にはルソン島のカリラヤ日本庭園日本人戦没者慰霊碑の前で合同慰霊祭を行いました。各班とも各地で僧侶様の読経と焼香、戦没したであろう地で各自呼びかけを行いました。父の顔も写真で、あるいは遠い記憶の中でしか覚えておらず、母の苦勞を見て育った私たちが呼びかけは、涙

現地小学校の校表敬訪問でプレゼントした楽器等



現地小学校のリクエストで実現した中古楽器のお土産

現地の小学校表敬訪問でプレゼントした楽器等

	ピアノカ	リコーダー	キーボード 電子ピアノ	タンバリン	鈴	カステネット	ハーモニカ	太鼓	鉄琴	トライ アングル	マラカス	紙風船	組立紙箱	Tシャツ	歯ブラシ	タオル
A班 (ルソン島)	17	21	1	2	8	10	1				1	4		10	30	20
B班 (レイテ島)	17	38	1	1	7	8	1	1	1	1			30			10
合計	34	59	2	3	15	18	2	1	1	1	1	4	30	10	30	30

# フィリピン方面戦跡慰霊巡拝に 同行して

広報委員会委員長 田中 靖俊

このたびの滋賀県遺族会フィリピン方面戦跡慰霊巡拝に広報委員会より参加しました。平成最後の年、2月8日から14日までのA班で15人の参加者に、大津仏教会会長の前阪良憲上人ご夫妻のご参加で、マニラ首都圏から北方山岳地帯方面の慰霊巡拝コースに同行。

マニラ空港到着初日はクラークで一泊し、翌日よりリングエンのジャパニーズガーデンの観音像前と、マバラカット市の神風特攻隊記念碑前での慰霊法要を手に始めに、バギオ英霊碑前でも慰霊法要をしました。高い山並みがそびえる山岳地帯に入り、バギオより山道21キロ地点で慰霊法要を重ねる道中で突発事態にみまわれまし



バレテ峠の戦没者追悼碑前で

で、昨年8月の台風で山崩れの被害にあった道路にさしかかりました。通行止めにもかかわらず、バスドライバーは絶妙なハンドル操作を見せ、一方は岸壁、片側は深い谷底という危険な道を慎重に安全運転で進行してくれました。

学校訪問の現地到着が大幅に遅れましたが、参加者が持参した多種多様な中古の楽器類をお土産として寄贈し、校長先生や学童150人他多数の大歓迎をいただきました。感謝された親善訪問でした。引き続き標高2100以上の高地で慰霊巡拝し、ボントック

今回初めて戦跡慰霊巡拝に参加させていただきました。叔父の正雄が亡くなったから早75年の歳月が過ぎました。叔父の戸籍には「昭和19年12月8日、時刻不明、比島ブラウエン飛行場に於いて戦死」とあります。まだ21歳の若者でした。叔父が出征したのは昭和18年12月。当時、私はまだ9カ月の赤ん坊でした。ですから、叔父の記憶は何もありません。祖父や祖母、父母から聞いただけのものです。

戦争が終わって、帰ってこない息子を祖父や祖母はどれほど案じていたか、父も弟の帰りを心待ちにしていたらどう思いますか、終戦から3年ほど経ったある日、悲しい知らせが届いたそうです。私はなぜかその日の

## 炎天下の慰霊地で若い叔父を想う

高島市遺族会 山田 和久  
記憶がぼんやりですが頭に残っています。その日、田んぼにいた祖父のもとに誰かが何か通知を持ってこられました。私も母に田んぼに連れて行ってもらって

藤雄滋賀県議会議員のご来賓をお迎えし、懐かしい唱歌『ふるさと』を合唱し、英霊をお慰めできたことに、一同涙されていました。更に翌日は、今回初めて海外戦跡慰霊巡拝に参加された越直美大津市長と野田

藤雄滋賀県議会議員のご来賓をお迎えし、懐かしい唱歌『ふるさと』を合唱し、英霊をお慰めできたことに、一同涙されていました。更に翌日は、今回初めて海外戦跡慰霊巡拝に参加された越直美大津市長と野田

ともありましたが、「ようお参りに来てくれたなあ」という亡くなられた方々の涙雨だったのかも知れません。2日目に叔父の亡くなったレイテ島のブラウエン飛行場のすぐそばの慰霊地へお参りしました。炎

天下でした。75年前もきっと暑かっただろうと思います。ガイドの方の話では、当時は食べるものもなく、ほとんどの方が飢え死にだったとか。暑さと空腹と疲労と、叔父はどんな気持ちだったのか、叔父だけではなく一緒にいられた方達や、またあちこちの戦地へ赴かれた方々のご苦労を思うと胸が痛みました。

各慰霊地にお参りする都度、その周辺の方々や子どもさんが出てきてくれました。そしてその方達が慰霊地の草を刈ったり掃除をしたり、

管理をしてくださったかと思いついて頭の下がる思いでした。小学校訪問では、子どもたちのキラキラした目が印象的でした。言葉は通じませんでした。言葉は通じませんでした。言葉は通じませんでした。

初めましての慰霊巡拝なので、最初はどうするのかわかりませんが、何か大変なことがあったのだなと感じたのでしよう。息子の没したところへ一度お参りしたいと祖父母は思っていたと思いますが、戦後の混乱期、生活するのがやっとの毎日でしたし、どうか生活が安定してきた頃には父が病気になり、その半年後に祖父が亡くなり、祖母も相次いで亡くなってしまいました。祖父母の思いをよく聞いていた私は、行

2月8日から14日までの7日間、「平成30年度滋賀県遺族会フィリピン方面戦跡慰霊巡拝」が滋賀県遺族会主催で行われ、私も参加しました。

私の父はフィリピン・レイテ島オールモック山中で戦死したと聞いています。そのオールモックの山中で慰霊祭を開いていただきました。僧侶様の読経と焼香、そして私は呼びかけをさせていただきました。母の苦勞を思うと言葉がうわ

父は私が3歳で出征、戦死したのだと覚えています。父の遺品は一つ返っていません。父は暑さと疲労、空腹、そして米軍の攻撃から逃げ回ったあげく

と涙が出ます。この慰霊祭をした場所の小石を持ち帰り、父の遺品にしよと考えました。そして3月3日、急遽「お父さんお帰りなさい」の会を計画しました。招待したの

## お父さんお帰りなさい

守山市遺族会 山川 芳志郎  
戦死したと思えます。父の最期を思う

「お父さんお帰りなさい」の会を計画しました。招待したの家族全員、分家2世帯の計9人です。僧侶を呼ぼうとしたのですが、「兄ちゃん、あんたが導師を

やれ」というものです。叔父もきくと喜んでいて思いますが、道中、皆様にはいろいろお世話になりました。ありがとうございました。



カリラヤ日本庭園日本人戦没者慰霊碑前で

遺族の友第259号の訂正とお詫び  
一般財団法人滋賀県遺族会賛助会員規程  
(3) 一般賛助金は、一口5000円(一口以上)をこの法人の趣旨に賛同する人から募集するものとする。  
2 実施期間は、平成31年4月1日から平成34年3月31日までの間、毎年実施する。  
以上のように訂正し、お詫び申し上げます。



ルソン島ベンケットの小学校で子どもたちとともに



# 今日に生きる者の務め

## 甲賀市伴谷遺族会会長 前田 貞雄

先の大戦終了から74年が経過しますが、悲惨な記憶は薄れつつあります。戦争は、平和な今日には関係のない、歴史上の出来事となりつつあります。最近では、遺族会行事への参加や会費の支払いが煩わしくて、退会される方も見受けられます。

私ごとですが、叔父は昭和20年3月にビルマで戦死しました。私は翌年に生まれましたので、顔を見たこともなく、寂しさや悲しさはありませんでした。仏壇に位牌を祀っておりますが、遺族会行事への参加は煩わしく思っていました。両親も他界し、所帯主となり、遺族会は地域の



甲賀市伴谷で行われた地区慰霊祭

付き合っていくと考えていましたが、水口町遺族会の支部役員を務めてからは、思いが変わってきました。今日までの人生で良かったことは何だったかを考えると、その一番は日本に戦争がなかったことだと思います。戦争になれば、家族は生活に困窮し、徴兵された本人は風呂も入らず、病気や怪我の治療も十分に受けられず、地獄をさまようことになります。核攻撃でも受ければ、この身は丸焦げになるか、軽傷でも後遺症を患う等の悲惨な状況が待ち受けています。思い巡らすだけで、二度と戦争を起してはならないということが分かります。

現在享受している平和と繁栄が、戦争によって尊い命を落とした方々の犠牲の上に築かれていることを忘れてはなりません。遺族会でできることは、慰霊法要にお参りして、感謝と共に平和を願うことです。大切なのは行事や不戦の誓いを次世代に引き継ぐことです。遺族会が慰霊法要を継続することは、政治にも影響を及ぼし、親睦にも役立ち、併せて子孫が平和に過ごすための活動でもあります。今年も皆様のご協力を得て、63回目の地区慰霊祭を終えましたが、今後も寄り添って参拝し、感謝の誠を捧げ、ご加護を願うことが今日に生きる者の務めだと信じてやみません。

## 忠魂碑参拝の継承を

### 大津市遺族連合会堅田学区遺族会会長 田中 正彦

平成30年秋のお彼岸の9月23日、近江八景「堅田の落雁」浮御堂に多くの観光客が訪れる境内の一角で、秋季堅田学区戦没者慰霊法要(忠魂碑参拝)が厳粛に行われた。

長年にわたる堅田学区自治連合会主催の堅田学区出身戦没者慰霊法要が、戦後50年を経た機会に取りやめとなり、その後、慰霊の灯を消さないために学区遺族会自らが忠魂碑参拝の形で行う慰霊法要に、今回、堅田学区社会福祉協議会から助成金交付を受けることとなった。

地元選出の県議会議員、市議会議員や各種団体代表者の参列を受け、遺族会員とともに諸英霊をお慰めできることはこの上ない喜びである。特に社会福祉協議会会長から「忠魂碑の参拝を将来にわたって継承していこう!」と、力強く追悼の言葉をいただき、遺族会員一同心強くなった。

春のお彼岸、堅田学区出身戦没者慰霊法要ともども、堅田仏教和合会11カ寺から格別のご理解ご支援をいただき今日に至っており、引き続き遺族会員一丸となって各種団体の参列を伴った忠魂碑参拝を続けていかなければならない。



浮御堂(満月寺)境内で執り行われた戦没者慰霊法要

## 追悼の辞

秋のお彼岸の日、堅田学区戦没者慰霊法要・忠魂碑参拝にあたり、ひとこと追悼の辞を申し上げます。

平成最後の慰霊法要となりました。73年という歳月が過ぎ、ご遺族の方々も随分ご高齢になられました。戦争を考える上では大変重要な慰霊法要であります。この法要をいかにして若き子どもや孫に伝えていくかを、真剣に考えていかなければならない時期に来ているのではないのでしょうか。

今年の終戦の日、天皇陛下は「戦後の長きにわたる平和な歳月に思いをいたしつ」というお言葉を述べられました。73年という長い歳月に、日本国において一度も戦争がなかった、ということは、本当にありがたいことの反面、戦争の悲惨さも薄れていくのではないかと危惧いたします。

原爆の慰霊式典に携わってきた31都道府県被爆者団体に毎日新聞が実施したアンケートで、約3割の11県の団体が被爆者の高齢化などを理由に、「これまで通り式典を続けていくのは難しい」と回答したそうです。原爆によって被爆された方々は、私たちに想像もつかないくらい思いをされてきたと思うのですが、このような結果を聞くと本心に心が痛みます。式典を開催できても参加者が年々減り続け、半分からゼロになっている地域もあるようです。もう私たち関係者だけでは何をすることも「限界」です。しかし、このことを絶やすことは絶対にできません。関係者だけで語り継ぐのではなく、日本の子どもたち全員に平和教育を徹底することが重要であると

思います。長崎県では、バーチャルリアリテイ、つまり仮想現実で原爆の落ちた長崎の街を再現できる教材作りを進めているそうです。このような教材が日本全国の子どもたちの教材となることを祈っています。そして、すべての子どもたちに戦争の怖さを疑似体験してもらい、いかに戦争がむごいことであり愚かなものであるかを感じてもらい、戦争を身近なものとして考えてもらえればと期待しています。結びにあたり、戦没者の永久のご冥福と、ご遺族さまのご多幸とご健勝をお祈り申し上げますとともに、今後も続けていきたい平和と発展を心より祈念いたしまして、追悼の辞とさせていただきます。(堅田学区社会福祉協議会会長 山口 寿津子)

## 滋賀県平和祈念館だより

### 第23回企画展示 沖縄戦1945年

—滋賀県出身の兵士がたどった道—

今回は、郷土部隊のゆくえとともに、戦場となった当時と現在の沖縄県の様子を紹介します。



沖縄戦「白旗の少女」



沖縄戦で捕虜になった少年兵



避難民の子ども

～9月23日(月・祝)まで〈入館無料〉

滋賀県平和祈念館(東近江市下中野町431) Tel 0749-46-0300

開館時間:午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日:月・火曜日(※7月17日(水)～8月31日(土)は無休)

駐車場:約50台(無料)

女性部の集い開催

高島市遺族会女性部長 北川 敏子

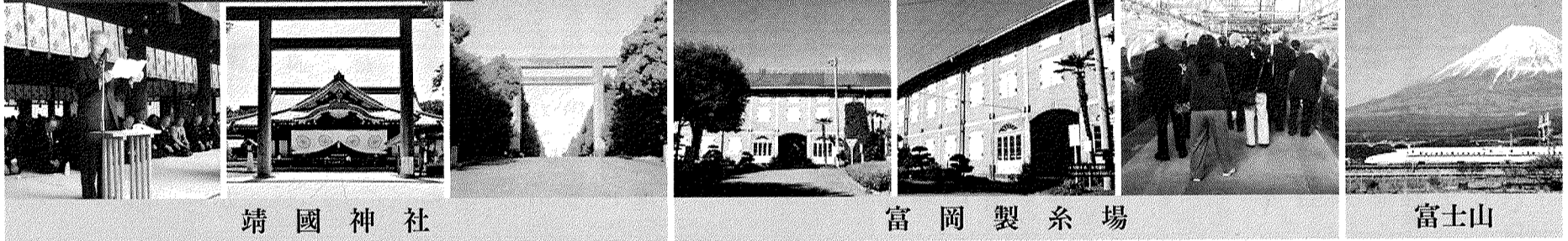


高島市遺族会女性部の集いに参加した会員の方々

高島市遺族会女性部の集いに参加した会員の方々の感想や活動内容に関する記事の本文部分。

平成30年12月4日、安曇川町の寿光苑で高島市遺族会女性部の集いを開催しました。多忙な師走にもかかわらず、今回は31人と多くの方の参加をいただきました。毎年1回は集まるようにして、昨年はスパリゾート雄琴あがりやんせ、一昨年はニューびわこへ行きました。午前11時から英霊に黙祷を捧げ、続いて高島市社会福祉協議会の方から認知症について講演をしていただきました。その後私たちが関わる話ばかりで、皆さん納得... (以下略)

平成31年 靖國神社 昇殿参拝旅行



靖國神社

富岡製糸場

富士山

靖國参拝応募作品

今年も、滋賀県遺族会靖國神社昇殿参拝の旅「俳句・短歌」を募集したところ、皆さんから感動の作品を寄せていただきました。前年に引き続き、俳句・短歌の選者から添削と講評を受け、今回掲載します。(広報委員会)

短歌

磯崎 啓・選

靖國の宮におられる父上に今年も逢える我の幸せ
東京の学舎に学ぶ孫の無事靖國におわす父に頼みぬ
春近く靖國の宮に昇殿し家族の様を叔父に語り

(甲賀市) 田畑啓之助

遺児達らみな集ひてこの年もはるばる来ました靖國の宮
靖國の宮の創立百五十周年祝ひて踊り手あまたが踊る

(栗東市) 社納源太郎

感謝しつつ生を長らえて靖國へ父も私も新元号待つ
亡き母の二十五回忌務めたと云えば声なき父も安堵せん

(長浜市) 山根富士子

靖國の父と語れば目にかぶ雨のホームで別れたあの日
靖國に参拝せむ朝バスの窓振袖袴の乙女らのゆく

(彦根市) 廣松 隆也

友の植えしパラオの桜巡り来て春漸うの庭父と行く
二人旅約しいし春の宮に来て妻に代りて拍手を打つ

(愛荘町) 土田 幸夫

戦いにあまたの人を失いし国安かれと常磐木なびく
遊就館に激しくありしいくさ場に逝きし友思い我すすり泣く

(竜王町) 大西 初枝

レンガ積みの世界遺産に見とれて着物姿の工女の声聞く
車窓にまばゆい光あふれいて白樺湖はまだ雪とけぬまま

(愛荘町) 前田 いそ

【評】 思えば我が国を困苦と惨禍のなかに巻き込んだ大戦も、いつしか70有余年前のことになってしまった。しかし、こうしてこの年も靖國神社に昇殿参拝され、戦いに散った父や親族の方々への悲しみと心情的な哀れが、これらの方々の短歌を拝見すると、いまだにその遺族の方々を悲しむことなしとて忘れることなく生き続けて行くことの大切さを教えてくれる。記念碑なのである。

俳句

寺村 しげる・選

花の宮逢ひに来たぞや亡母(はは)つれて
春浅し終の詣でか九段坂

(近江八幡市) 廣田 彦一

次の世も平和を願う春詣
春詣忘れられない父の顔

(竜王町) 堀井平次郎

四百の拍手揃ふ春の宮
叔父の待つ九段の春の尚寒し

(彦根市) 今居 利隆

鳩の群れ開花喜び青空へ
香る梅遊就館に父徳ぶ

(彦根市) 山根富士子

境内の開花待ちつつ拝む人
車窓より残雪映える浅間山

(彦根市) 廣松 隆也

浅間映え若草の原せまり来る
父に会い気も軽く草萌えの道

(愛荘町) 土田 幸夫

春浅しよわい重ねて靖國に
靖國の神籬桜父恋し

(竜王町) 大西 初枝

春風に靖國の父偲びけり
春びより鳩おで迎え大鳥居

(愛荘町) 前田 いそ

【評】 靖國神社への春の参詣の句16句、謹んで拝見いたしました。お国のために亡くなられた肉親の方々を追悼する心がよく詠まれていて、新しい令和の時代の平和を強く祈りました。神社参拝の様子だけでなく、旅の車窓に眺めた春の情景も詠まれていて良かったと思います。俳句は、季節の詩でもありますので季節の働きが大きな位置を占めます。五七五の定型は守られています。が、季語の選び方にもう少し心を配ってほしいと思いました。応募があるから作るというのではなく、心に響く情景や、季節の移り変わりに感動を覚えたときに作句する習慣を身につけていただければありがたいと思います。